

# 美術科学習指導案

尾道市立長江中学校

指導者 小田 恭子

- 1 日 時 令和3年9月15日(水) 5時限目
- 2 場 所 美術教室
- 3 学年・学級 3年3組(男子17名, 女子11名 計28名),  
知的障害特別支援学級(あおぞら学級 男子1名, 女子1名)
- 4 題 材 名 光と影で遊ぶ ～切り絵で学校を飾ろう～
- 5 題材について

本題材は、中学校学習指導要領(美術)の次の内容を受けて設定している。

## A 表現

(1) 表現の活動を通して、次のとおり発想や構想に関する資質・能力を育成する。

ア 感じ取ったことや考えたことなどを基に、絵や彫刻などに表現する活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(イ) 対象や事象を深く見つめ感じ取ったことや考えたこと、夢、想像や感情などの心の世界などを基に主題を生み出し、単純化や省略、強調、材料の組合せなどを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ること。

(2) 表現の活動を通して、次のとおり技能に関する資質・能力を育成する。

ア 発想や構想をしたことなどを基に、表現する活動を通して、技能に関する次の事項を身に付けることができるように指導する。

(イ) 材料や用具の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追及して創造的に表すこと。

## B 鑑賞

(1) 鑑賞の活動を通して、次のとおり鑑賞に関する資質・能力を育成する。

ア 美術作品などの見方や感じ方を深める活動を通して、鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(イ) 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めること。

### [共通事項]

(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること。

イ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること。

### (1) 題 材 観

本題材は、切り絵の制作、背景の制作、鑑賞の3つの活動で構成されている。切り絵とは、紙の不要な部分を切り抜いて絵を作り上げていく絵画の手法の一つである。本題材の制作では、切り絵の背景に、ポスターカラー等で着色した和紙を付ける。切り絵の画面構成、配色の知識、絵の具の使い方だけでなく、和紙の透過性を生かした切り絵の作品制作を通じ、光と影の組み合わせを生かした構成もふまえた作品制作となる。また、背景の着色にモダンテクニックや水彩技法を活用させることにより、材料や用具の特性を生かして、制作意図に応じた自分の表現方法を追及させることをねらっている。

### (2) 生 徒 観

本学級の生徒は、一学期に「抽象絵画」について学習した。モチーフを単純化したり強調したりして描く活動や、自分が想像したイメージを具体的なモチーフを描かずに線と色で表現する活動を行った。それらの活動を通して、抽象的な形が伝えるイメージの多様さと美しさを感じ取り、写実的な表現のみが絵画のよさや美しさを表す手段ではないことを学んでいる。

本題材に係る事前調査を行ったところ、次の結果が示された。

質問項目	肯定的回答 (本学級)	肯定的回答 (学年)
① 画面の構成を考えるのは得意です。	65.2%	52.8%
② 色の組み合わせ(配色)を考えるのは得意です。	69.6%	72.2%
③ 絵の具を使った表現(着色)は得意です。	47.8%	61.1%

アンケート結果から①「画面の構成」と②「配色」について、約1/3の生徒が得意ではないと感じている。得意ではないと感じる主な理由には、構成の仕方や配色についての知識が十分でないことや、知識があってもそれをどのように作品に生かせばよいのか分からないということが挙げられる。また、③「着色」については、「水加減が難しい」などを理由に、半数以上の生徒が得意ではないと感じている。

以上のことから、本学級の生徒に、画面の構成や配色の知識、絵の具の使い方などの技能を身に付けさせると共に、それらの知識・技能を生かして作品の構想を練る思考力と、制作意図に応じて効果的に表現する力を身に付ける必要がある。

### (3) 指 導 観

切り絵の制作では、次のことを指導する。切り絵の構想を練る際に、これまでの学習を踏まえて一学期の「抽象」の学習で学んだ形の単純化や強調を意識させる。単純化・強調することで、カッターの作業に慣れていない生徒にも切りやすい形になるという利点がある。切り絵の下図を考えるのはスケッチ(ドローイング)でアイデアを出していくのが通常の作業手順であるが、イメージした線や形を切り絵に結びつけさせるために、実際にカッティングを行ってアイデアをまとめることを勧める。切り絵の画面構成を考える際には形の粗密を意識させることで、黒い切り絵の部分と色みのある背景の部分が互いに引き立つメリハリの効いた構成になることを伝える。

背景の制作では、イメージマップで作品の主題から連想する言葉を出させ、さらに言葉からイメージする色を出させることで、背景に使用する色の発想の基とさせる。配色の知識が十分でない生徒のために「寒色と暖色」や「色調」といった色彩のもつ感情や性質について触れることで、主題を効果的に表す色の組み合わせを考えるための参考とさせる。配色を考える際には、タブレット端末のペイントアプリ「Chrome 描画キャンバス」を活用させる。配色のアイデアを画面上で容易に試行錯誤しながら作成・保存ができることで、生徒の配色に対する意欲喚起とアイデアの広がり・深まりが期待できる。着色が不得

意な生徒のために、背景の着色の方法としてモダンテクニックや水彩技法を取り上げる。様々な材料や用具の特性を生かして着色したり、モダンテクニックで偶然できた形や色の面白さを発見させたりする中で、それぞれの着色方法をどう組み合わせるかを自己決定させることで、表現の創意工夫を行わせたりしたい。

鑑賞の活動では、完成した作品の展示場所を話し合ったり、展示した作品を鑑賞し合ったりすることで、生活を彩る美術作品のよさを味わったり、お互いの作品の工夫に気づかせたりさせたい。

## 6 題材の目標

(1) 形や色彩、光などの性質が感情にもたらす効果について理解するとともに、自らが生み出した主題に応じて、技法を効果的に組み合わせながら表現することができる。

【知識・技能】

(2) 切り絵の造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫について総合的に考え、主題を基に豊かに発想し構想を練ったり、作品に対する見方や感じ方を深めたりすることができる。

【思考・判断・表現】

(3) 主体的に美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を想像していく態度を養う。

【主体的に学習に取り組む態度】

本校で育成したい資質・能力のうち、本単元で特に育成を目指すのは、「思考力・表現力」、「主体的に学ぶ力」である。

## 7 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①形や色彩、光などの性質が感情にもたらす効果を基に造形的なよさを全体のイメージで捉えることを理解している。	①感じ取ったことや考えたことなどを基に主題を生み出し、切り絵や背景を作る活動において、単純化や省略、強調などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。	①美術の創造活動の喜びを味わい主体的に感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現の学習活動に取り組もうとしている。
②切り絵やモダンテクニックなどの技法や、ポスターカラーなどの描画材の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追及して創造的に表している。	②作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。	②美術の創造活動の喜びを味わい主体的に作品や美術文化などの鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

## 8 指導と評価の計画（全8時間）本時4／8

次数	○学習内容 ・学習活動 【時数】	評 価			
		知	思	態	評価規準（評価方法）【評価項目】
第一次	○作品の主題を考える。 ・参考作品を鑑賞し、作品制作のイメージをもつ。 ・作品の主題を決める。 ○切り絵の制作をする。 ・アイデアスケッチをしたり、試し切りをしたりして、切り絵のアイデアを考える。 ・アイデアを決定し、黒画用紙を切る。 【3時間】	○	○	○	・形がもたらす効果を理解して、カッティングの特性を生かした切り絵を作っている。（作品）【知識・技能】 ・主題を表すために、形や構成を工夫しながら切り絵をしている。（行動観察、ワークシート）【思考・判断・表現】 ・主題を基に切り絵の制作に取り組もうとしている。（行動観察、ワークシート）【主体的に学習に取り組む態度】
第二次	○切り絵の背景の配色を考える。 ・主題に合う配色を考える。 ・考えた配色をタブレットで試し、切り絵と合わせる。 【1時間】 ◆本時		○		・主題に合う配色を考えている。（ワークシート、作品）【思考・判断・表現】
第三次	○切り絵の背景の着色をする。 ・モダンテクニックや水彩技法について確認する。 ・考えた配色や色塗りの技法を組み合わせ、背景を作る。 ・切り絵と色の面を組み合わせ、ラミネート加工する。 【3時間】	○		○	・習得した知識を生かして、主題に合う背景を作っている。（作品）【知識・技能】 ・主題を基にして、試行錯誤しながら切り絵に合う背景を作ろうとしている。（行動観察、ワークシート）【主体的に学習に取り組む態度】
第四次	○作品を鑑賞する。 ・展示場所を決める。 ・作品を校舎に展示する。 ・お互いの作品を鑑賞し、思ったことや感じたことをワークシートに記述する。 【1時間】		○	○	・展示された作品のよさや工夫点を、主題や表現意図と関連付けながら見つけている。（行動観察、ワークシート）【思考・判断・表現】 ・自分と他者の作品のよさや工夫点を見つけようとしている。（行動観察、ワークシート）【主体的に学習に取り組む態度】

## 9 本時の展開

### （1）本時の目標

色彩の性質や感情にもたらす効果を理解して、作品の主題に合った配色を考えることができる。

### （2）本時の準備物

- ・ワークシート
- ・作品（切り絵）
- ・タブレット「ChromeBook」
- ・配色カード
- ・参考作品

### （3）本時の主体的な学びを促す手立て

試行錯誤を通して、主題に合う配色を考えるためにペイントアプリを用いる。【見所】学習活動6

(4) 本時の評価基準

十分満足 (A)	おおむね満足 (B)	努力を要する生徒への手立て (C)
○寒色・暖色や色調などの既習事項と結び付けながら、主題に合った配色を考えることができる。	○主題に合った配色を考えることができる。	○イメージマップで連想した言葉から浮かぶ色を発想の基にさせる。

(5) 本時の学習展開

	学習活動	○指導上の留意点 ◆努力を要する生徒への支援	☆評価規準 (評価方法)
導入	1 前時までの学習の確認をする。	○制作の過程を振り返らせ、本時は切り絵の背景の配色を考えることを想起させる。	
	2 本時の目標を確認する。	○学習目標を示す。	
	色彩の効果を生かして、作品の主題に合った配色を考えることができる。		
展開	3 学習課題をつかむ。	○学習課題を示す。	
	タブレットを使って、作品の主題に合う配色を考えよう。		
	4 練習課題の配色を考え、タブレットのペイントアプリで表す。	○練習課題の条件を示す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">「夏を主題に2色で表す」</div>	
5 色彩についての既習内容を確認する。	○主題のイメージと色のイメージを結びつけることを確認させるために、出来上がった配色を数点、理由と共に紹介する。 ○ICTを用いて「色の感情」について視覚的に説明することで、配色のポイントを整理しやすくさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">【配色のポイント】 「寒色」「暖色」「色相が近い・遠い色の組み合わせ」「色調」</div>		
6 自分の作品の主題に合う配色を、タブレットのペイントアプリで表す。	○出来上がった配色を、その都度保存しておくよう指導する。 ◆主題に合う配色を発想させるために、前時で行ったイメージマップの言葉か		

	<p>7 タブレットの画面に切り絵を重ねて、配色とのバランスを確認する。</p> <p>8 考えた配色について、全体で交流する。</p> <p>9 配色を再考する。</p>	<p>ら浮かぶ色を発想の基とするよう指導する。</p> <p>○自分のイメージする配色になっているか確認するよう促す。</p> <p>○主題に合う配色をしているものや、「冷たいイメージ＝寒色を使う」などの既習内容を活用している配色を紹介し、再考の視点とさせる。</p> <p>○自分の配色が主題に合うものになっているか、既習内容を活用しているかを確認させて、さらに新たな発想があれば、追加させる。</p>	<p>☆主題に合う配色を考えている。(ワークシート, 作品)</p>
まとめ	<p>10 次回の学習内容の確認と、本時の学習の振り返りをする。</p>	<p>○色彩の効果をどのように生かして配色を考えたかを記述させる。</p>	

#### (6) 板書計画

〈題材〉光と影で遊ぶ  
 〈目標〉色彩の性質や感情にもたらす効果を理解して、作品の主題に合った配色について構想を練ることができる。  
 〈課題〉タブレットを使って、作品の主題に合う配色を考えよう。

スクリーン

配色のポイント (例)

参考作品	参考作品	→ 色相の近い組み合わせ → まとまりやすい
参考作品	参考作品	→ 色相の遠い組み合わせ → インパクトがある
参考作品	参考作品	→ 同じ色調の組み合わせ → 色調ごとのイメージ